様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月７日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０１２８
研究課題名（和文）　国際秩序と国内秩序の共振に関する包括的研究

研究課題名（英文）　The Reciprocal Reconfiguration between International and Domestic Orders

研究代表者
石田　淳（ATSUSHI ISHIDA）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：９０２８５０８１

研究成果の概要（和文）：

国際社会には、「国内統治の国際基準の移植」を否定する内政不干渉型の秩序観と、それを肯定する内政干渉型の秩序観とが併存している。前者は国家の排他的な領域統治を相互に承認することを重視し、武力不行使、内政不干渉、領土保全といった規範原則に依拠するのに対して、後者は自決、人権保障といった規範原則に依拠し、このような国際規範が国家の媒介なしには実現できないがゆえに、国内統治の在り方に関心を持つことになるのである。本研究は、この二つの秩序観の併存が生み出すダイナミクスを考察の対象とした。

研究成果の概要（英文）：

There are two competing views of international order: the first view rejects the imposition of the international standard of domestic governance whereas the second view accepts it. The former stresses the mutual recognition by sovereign states of their own exclusive territorial jurisdiction and embraces normative principles such as nonuse of force, nonintervention, and territorial integrity whereas the latter embraces normative principles such as self-determination and human rights and pays close attention to domestic governance since these international norms would not be realized without their implementation by territorial states. Our research project has focused on the political dynamics produced by these competing views of international order.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：政治学・国際関係論
キーワード：国際秩序　干渉　内戦　人権　国家主権

１．研究開始当初の背景

国際政治学における国際秩序論は、従来、基本的に「国内類推（domestic analogy）論」的な発想を基盤とするものであった。すなわち、個人や集団から構成される国内社会における政治秩序の安定条件に関する命題は、主権国家から構成される国際社会においても同様に成り立つだろうという類推思考の産物であった。

２．研究の目的

本研究は、上記の国内類推論から脱却し、国際秩序の変動と国内秩序の変動とがどのように相互に連動するのかを解明することを通じて、国際秩序の変動を内政的かつ動学的に説明する枠組みを提供することをその主たる目的とした。

３．研究の方法

（１）シンポジウム・学会報告

科学研究費補助金研究プロジェクト「「破綻国家」の生成と再生をめぐる学術研究」（基盤研究（A）17203012 、2005～2008 年）との共催という形で、「国際問題としての破綻国家」と題するシンポジウムを東京大学駒場キャンパスにおいて開催した（2008 年 11 月 8 日）。本研究組織の外部から酒井啓子氏（東京外国語大学）、田中浩一郎氏（日本エネルギー経済研究所中東研究センター）をお招きし、本研究組織から司会として吉川元、報告者として石田淳が加わり、アメリカの武力行使と国家破綻との関連を議論する機会を得た。このシンポジウムを通じて、国際秩序と国内秩序の共振について、イラク、アフガニスタンを事例に比較検討を行った。

また、日本国際政治学会 2008 年度研究大会の部会「国際秩序論の三叉路」に討論者として連携研究者の納家政嗣、報告者として石田淳が参加し、少なくとも三つの国際秩序論について議論を交わす機会を得た。同部会では石田淳がいわゆる《平和に対する脅威》論を、篠田英朗氏（広島大学）が立憲秩序論を、山本吉宣氏（青山学院大学）が帝国論を展開した。

（２）「共振する国内・国際秩序研究会」の開催

国家破綻・平和構築、少数者の自決、内戦後の和平交渉、地域機構による加盟国の国内体制の集団防衛など、多様な問題領域において、《国際秩序と国内秩序の共振》の多面的な現実を共通の理論枠組みの下に包括的に考察するために、ゲスト・スピーカーも交えながら、東京大学駒場キャンパスにおいて一連の研究会を開催した。報告者および報告題目については以下の通りである。

① 2008 年度

武内進一「アフリカの紛争と国際社会」（2008 年 5 月 30 日）

② 2009 年度

吉川元「民族自決の果てに――マイノリティをめぐる国際安全保障」（2009 年 5 月 29 日）

武内進一「紛争後ルワンダの国家建設」（2010 年 1 月 15 日）

③ 2010 年度

ゲスト・スピーカー報告　佐伯太郎氏（JICA 研究所）「交渉になる内戦終結の可能性と限界――国内和平実現への国際社会の関与」（2010 年 6 月 26 日）

ゲスト・スピーカー報告　湯川拓氏（東京大学大学院博士課程）「地域機構における民主主義の集団防衛――ASEAN と ECOWAS における行動規範の比較」（2010 年 6 月 26 日）

ゲスト・スピーカー報告　久保慶一氏（早稲田大学）「コソヴォ独立宣言後のバルカン情勢」

４．研究成果

2008～2010 年度の３ヶ年に亘る研究成果は、下記の「５．主な発表論文等」に整理された通りである。

研究代表者の石田淳は、帝国の解体（すなわち、国境の再編）が、新生国家の秩序に緊張をもたらすと同時に、それを維持するために国際秩序における不干渉の緩和が生じることに着目して、国際秩序の変動と国内秩序の変動との連動関係を明らかにした。また、関係者の同意に基づく価値配分として《政治》を捉えたうえで、意図の伝達を通じた政治としての《交渉》と、共存の枠組みとしての《秩序》とを理論的に関連付けた。

研究分担者である吉川元は、主権国家内部における被治者の権利保障と、国家間における主権の相互尊重とは、しばしば競合し、一方の成功が他方の失敗を招きかねないことに着目し、内政不干渉に基づく《体制の安全》と《人間の安全》との緊張関係を明らかにした。

また研究分担者である土佐弘之は、個人・集団からなる国内社会において政体からいかなる個人・集団も排除しないという包摂の

論理は、国際局面においては、必ずしもいかなる国家も排除しないという包摂の論理につながるものではなく、国内における包摂の論理を受容しない国家を国際社会から排除するという排除の論理につながりうることを指摘した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

石田淳「弱者の保護と強者の処罰――《保護する責任》と《移行期の正義》が語られる時代」『年報政治学』2011-Ⅰ号(2011 年刊行予定)（査読無）

吉川元「民族自治制度とアイデンティティ政治」『法學新報（中央大学）』117 巻 11-12 号（2011 年）、457-494 頁（査読無）

土佐弘之「非対称的同盟における見ヶ〆の政治」『法律時報（増刊）』（2010 年）、212-220 頁（査読無）

Hiroyuki Tosa, "Reading Schmitt against Schmitt in the Context of the New War Debate," *Journal of International Cooperation Studies,* Vol. 18, No. 1 (2010), pp. 53-70. （査読無）

石田淳「国際関係論はいかなる意味においてアメリカの社会科学か――S・ホフマンの問い（1977 年）再考」『国際政治』160 号（2010 年）、152-165 頁（査読無）

吉川元「人間の安全保障と国際安全保障の相克――冷戦期国家安全保障を支えた国際政治の論理」『国際法外交雑誌』108 巻 4 号（2010 年）、69-104 頁（査読無）

Hiroyuki Tosa, "Anarchical Governance: Neo-liberal Governmentality in Resonance with the State of Exception," *International Political Sociology.* Vol.3 , No.4 (2009), pp. 414-430. （査読有）

〔学会発表〕（計 5 件）

石田淳「非対称化する安全保障のディレンマ」日本平和学会関西地区研究会、2010 年 11 月 27 日、神戸大学梅田サテライトキャンパス

土佐弘之「金融拡大局面の終焉（覇権移行）期における統治性の再編と規制強化の政治――グローバル・ジャスティス運動を中心に」日本政治学会、2009 年 10 月 10 日、日本大学

吉川元「欧州平和と米国――綻ぶ国家と強靭な平和の狭間で」日本平和学会、2009 年 6 月 13 日、恵泉女学園大学

吉川元「人間の安全保障と国際安全保障の相克」国際法学会、2009 年 5 月 9 日、慶應義塾大学

石田淳「人道と人権の時代における強制外交――権力政治の逆説――」日本国際政治学会、2008 年 10 月 25 日、つくば国際会議場

〔図書〕（計 2 件）

吉川元『民族自決の果てに――マイノリティをめぐる国際安全保障』有信堂、2009 年、223 頁

武内進一『現代アフリカの紛争と国家――ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』明石書店、2009 年、462 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　石田　淳（ISHIDA ATSUSHI）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90285081

(2)研究分担者
吉川　元（KIKKAWA GEN）
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：50153143

土佐　弘之（TOSA HIROYUKI）
神戸大学・大学院国際協力研究科・教授
研究者番号：70180148

(3)連携研究者
納家　政嗣（NAYA MASATSUGU）
青山学院大学・国際政治経済学部・教授
研究者番号：　50172581

石黒　馨（ISHIGURO KAORU）
神戸大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：　20185049

稲田十一（INADA JUICHI）
専修大学・経済学部・教授
研究者番号：　50223219

武内進一（TAKEUCHI SHINICHI）
独立行政法人国際協力機構 JICA 研究所・
上席研究員
研究者番号：　60450459